

アフター・コロナを見据えればその収束はもとより、従来の「生活三要素」のうち、「衣」は受診・入院・治療・療養・介護からなる「医」、すなわち、医療および高齢者や障害者など一般国民のアクセス権の移動、すなわち「移」、また「食」は「職」、すなわち、職業の安定、さらに「住」、すなわち、住宅は戦後、一貫として持ち家制度という名の国民の自助から政府の公的責任としての公助により生活環境も重視した「新・生活三要素」からなる「真の新しい生活様式」とし、すべての団塊世代が75歳以上となる2025年、さらに本格的な少子高齢社会および人口減少を迎える2065年を見据えたニュー・ライフスタイルをめざすべきではないか。

そこで、社会保障学者として「医(移)・職・住」からなる「新・生活三要素」を評価指標とし、だれもが「人生100年」を不安なく全うできるよう「真の新しい生活様式」を提起し、緊急提言したのが拙著である。